

日経プラスワン PLUS1

何でもランキング

夕日の美しい宿

9月の大型連休まであと1カ月。夏は天候不順にたたられたが、夕暮れが美しい秋は、水平線や山の端に赤く沈む大きな太陽を見ながら物思いにふけるのも一興だ。客室や露天風呂、ロビーなどからきれいな夕日を眺めることができるホテルや旅館を旅の専門家に選んでもらった。

(1~10位の詳細と記事を3面に)



1位 夕映えの宿汐美荘(新潟県)

414
ポイント

「日本海に沈む大きな夕日に感動」(本多美也子さん)、「刻々と変わる景観は天下一品」(野口冬人さん)、「粟島と佐渡島の間沈む夕日はすてきな思い出になる」(富本一幸さん) 写真

2位 黄金崎不老ふ死温泉(青森県)

381
ポイント

「黄金色の露天風呂から夕日を見る体験はほかでは味わえない」(井門隆夫さん)、「野趣あふれる夕日の風景」(小林しのぶさん)、「海に沈む夕日が見られる秘湯」(菅野潔さん)

3位 リゾートホテルオリビアン小豆島(香川県)

375
ポイント

「島影が多く、何も無い海の夕日より笑しさが際だつ」(野村菜津子さん)、「高台にあるので眺めが非常にいい」(藤江宏さん)、「瀬戸内の海と島々に落ちる夕日は絶景」(山田桂一郎さん)

心に染みるアカネ色

夕日の美しい宿

- 1 **夕映えの宿 汐美荘** (新潟県村上市) 414
日本海を一望できる客室、露天風呂からの赤い夕日が人気。海に沈む日の入り、季節を問わず眺められる点も評判①94室②1万5750円～③0254・53・4288
- 2 **黄金崎不老ふ死温泉** (青森県深浦町) 381
磯辺の露天風呂で海に囲まれ潮騒を聞きながら水平線に沈む夕日を眺められる。客室の多くや大浴場からも眺望可能①68室②1万1550円～③0173・74・3500
- 3 **リゾートホテルオリビアン 小豆島** (香川県土庄町) 375
露天風呂やレストランから瀬戸内海に浮かぶ島々との日没が楽しめる。客室では海側の約8割から夕日が見られる①109室②1万4000円～③0879・65・2311
- 4 **堂ヶ島小松ビューホテル** (静岡県西伊豆町) 294
リアス式海岸にあり、小島や岬など変化に富む夕暮れの景色を望める①48室②1万7850円～③0558・52・1101
- 5 **旅館紅鮎** (滋賀県湖北町) 228
全客室の露天風呂から黄金色に輝く琵琶湖を見ることが出来る①16室②2万3100円～③0749・79・0315
- 6 **淡島ホテル** (静岡県沼津市) 225
テーブルとパラソルを設けたテラスからの夕日が評判①60室②5万4285円～③055・941・3341
- 7 **横浜ロイヤルパークホテル** (横浜市) 201
西側の部屋から眺める富士山と日没の組み合わせが美しい①603室②1万1500円～③045・221・1111
- 8 **ホテル日航東京** (東京都港区) 195
夕日に加え、ビル群など都市部ならではの夜景も楽しめる①452室②2万8200円～③03・5500・5500
- 9 **海辺のお宿 一久** (山形県鶴岡市) 192
ロビーや全客室から視界いっぱいに日が沈む。料理の評価も高い①19室②2万1000円～③0235・75・2121
- 10 **荒磯亭** (福井県坂井市) 186
露天風呂からの夕日が美しい小さな宿。11月からはカニ料理も①15室②1万8900円～③0776・82・8080

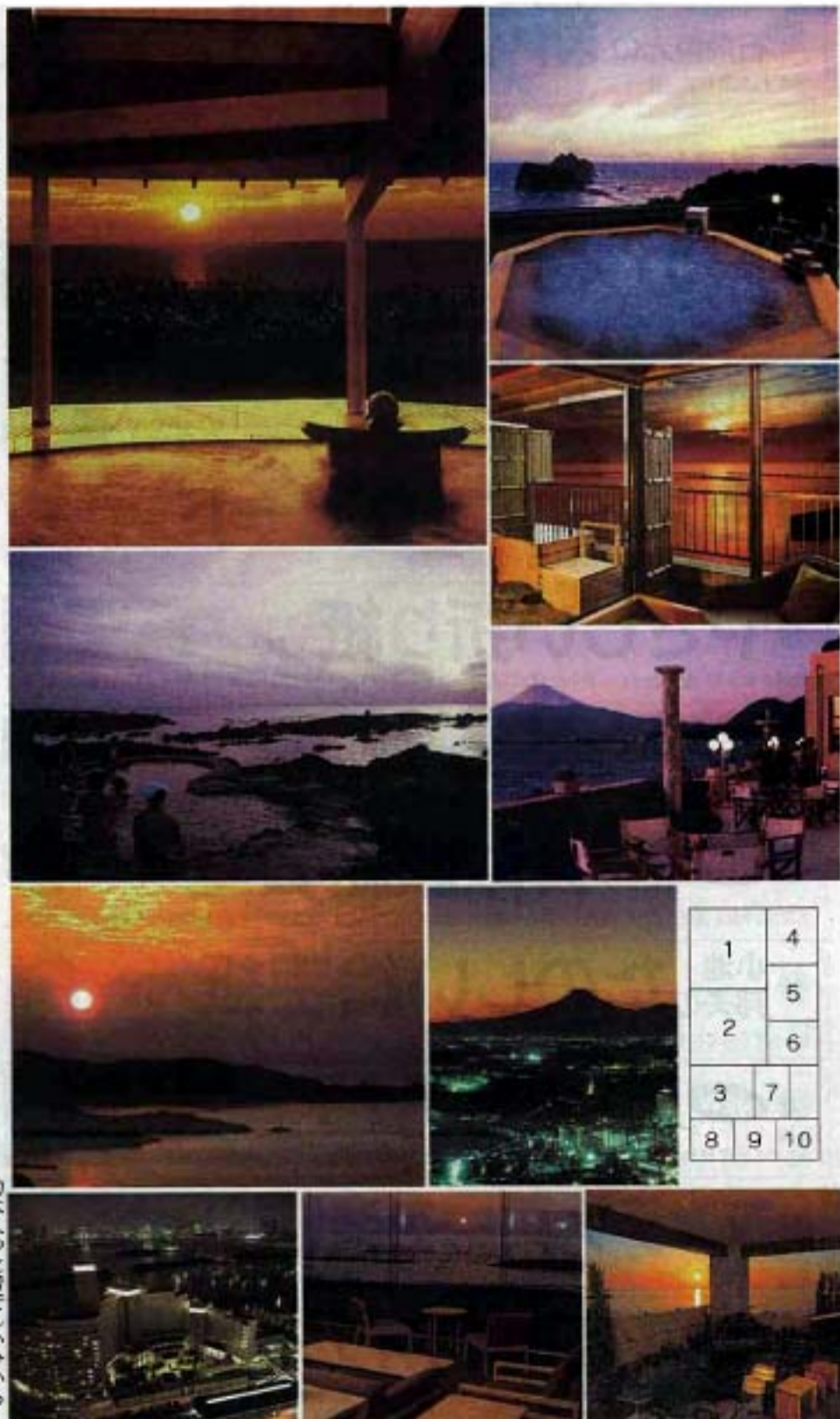
(注)右端の数値は専門家の評価をポイント化。①客室数②8月22日～9月末の最低料金(2人1室・1泊2食付き料金の1人分、入湯税別)③問い合わせ先の電話番号

1面から続く
太陽が沈む方向は時期によって変わる。今回のランキングでは、8月下旬から9月の大型連休の時期に、やまがけに隠れたりせずに夕日がきれいに見えることができる宿を対象とした。1位は新潟県北部の海岸

海岸にある「夕映えの宿 汐美荘」。日本海に面した砂浜沿いであり、全客室のほか、大浴場、露天風呂、ロビーなど館内の様々な場所から、夕日が西の空を茜(あかね)色に染めながら水平線に沈んでいく様子を眺められる。

海・湖・都会…豊かな表情
夕日を売りにしたサービスマも充実。日没時には夕日の色を合わせた赤いカクテルをロビーで提供する。宿泊客に夕日を存分に楽しんでもらおうと、ロビーに毎日の日没の時間と方向を掲示しているほか、世界各国の夕景の写真を展示したギャラリーもある。料理も地元食材をはじめ種類も豊富(本多美也子さん)。

2位は青森県西部の日本海側にある「黄金崎不老ふ死温泉」。青森市内から車で2時間半の距離だ。磯辺の露天風呂を評価する声が多く「海面に近い位置に湯船があり、湯船の先に夕日が沈んでいくように見える。眺望が素晴らしい」と感



1	4
	5
2	6
3	7
8	9 10

動は入った宿でしか分からない(岩佐十良さん)。

湯煙の向こうに沈む夕日は長旅の疲れを癒やしてくれそう。日没は客室の多くや大浴場からも望める。

3位は瀬戸内海に浮かぶ香川県小豆島の「リゾートホテルオリビアン小豆島」。高台にあり景色が良く「瀬戸内海の小島が夕日に輝き、水平線に沈む夕日と違った趣がある」と(菅野潔さん)。

16万平方メートルの広大な敷地内にはテニスコートやプールなどを併設し「パターゴルフ場の芝生に寝転がりながらの観賞がおススメ」(富本一幸さん)。

海に臨む約8割の部屋から夕日が、山側に面する残りの部屋からは朝日が見える。

4位は静岡県伊豆半島西岸にある「堂ヶ島小松ビューホテル」が入った。リアス式の変化に富む海岸線の沖に小島が点在し「島越に沈む夕日が松のシルエットを映し出す」(井門隆夫さん)。

露天風呂や室内から眺められる。見ると時期が違つたため対象外となっ

たが、同じ堂ヶ島では「堂ヶ島温泉ホテル」を推す人もいた。目の前に回廊光地の名所、三四郎島があり、10月～翌2月、夕日に浮かび上がる島影を楽しめる。

5位は琵琶湖に面する滋賀県の「旅館紅鮎」。「巨大な湖の向こうに沈む夕日が旺盛(木崎ミドリさん)。湖に浮かぶ竹生島(ちくぶしま)も見え、赤く染まった湖面と島影とのコントラストが美しい」(富本さん)。

6、7位には富士山と夕日が楽しめる宿が入った。6位の「淡島ホテル」(静岡県沼津市)は半数の客室、7位の「横浜ロイヤルパークホテル」(横浜市)は西側の部屋から見える。

8位の「ホテル日航東京」(東京都港区)は都心の臨海部に建つ点が強み。約3000の客室から日没が見える「塩田(ふところ)やビル群の間に夕日が落ちる」(丸々もとおさん)。

10位内には入らなかったが、北海道では「知床第一ホテル」(釧路市)を挙げた人が自立した。雄大な自然が特徴で、冬には「夕日に染まる流水」(藤江宏さん)に感動できる。九州では熊本県大津市の「ジャルディン・マール洋館」が「東シナ海に沈んでいく夕日」(野村菜津子さん)を賞賛できる。

季節によって日没時間も変わる。ゆっくりと目の入りを見たければ「日没時間の確認が大切」と菅野さん。また「夕日の見える風呂は日没時は込み合う。貸し切り風呂などがあるか調べた方がいい」という。

の旅ガイド▽小林しのぶ(旅行ライター)▽宮野深(ホスピタリティライター)▽宮本一幸(トラベルライター)▽二木貴治(NPO法人日本列島夕陽づくり協会理事長)▽野口冬人の会代表)▽野村菜津子(トラベルライター)▽藤江宏(NHK文化センター写真)▽本多美也子(旅行ジャーナリスト)▽お(夜読評論家)▽山田桂一郎(省認定観光カリスマ)